

試験研究(事前)評価整理表

試験研究機関名 ハイテクプラザ
所管課 産業創出課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	再生可能エネルギーの研究拠点・関連産業の集積・育成	産総研連携強化型技術開発事業	バイパス回路内蔵太陽電池パネルの実装技術の開発	県内企業がハイテクプラザと産総研再エネ研(FREA)と共に太陽電池パネルを開発し、県内企業の再生エネルギー関連技術の高度化を図る。	太陽電池パネルの安全に不可欠な保護回路に用いられるバイパス回路を、薄型化しパネルに内蔵させる。パネル配線の短縮とジャンクションボックスの簡素化によるコスト削減を目指す。	H30	H31	A	ニーズがあり、目指したコスト削減に期待する。技術移転には熱対策・耐久性の評価が鍵となる。	価格競争が激しくなっている太陽光パネルにおいて、新規アイデアで競争力を持たせるテーマである。 熱の評価に加え、ダイオードの厚みとセルの厚みの差が課題となるように思われる。モジュール間接続の配線のためのボックスは必要であろうから、コストダウン効果の評価は丁寧に行なう必要がある。 ダイオード配置の自由度が上がることによるモジュールの性能向上(問題が生じたセルや局所的な日陰による出力低下が少なくできるダイオード配置など)や、設置工事が簡便になるモジュール構造(コネクタとフレームの配置を工夫、フレームとコネクタの一体化など)も検討して欲しい。(佐藤)
2	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	基盤産業の強化・育成	溶接における研磨仕上げ部の自動欠陥検出技術	欠陥を分析評価することによって基準を明確に規定する。その結果を元にシステムを構築して検査を自動化する。	溶接後の研磨仕上げ部に残存する欠陥を自動で検出するシステムを構築する。	H30	H31	A	溶接の検査工程が検査員による目視が主流であり、個人のばらつきが検査結果に大きく影響することを考えると、判断基準の一般化と検査工程を自動化する技術は重要である。よって、積極的に取り組む必要がある。	企業ニーズが高い分野と思う。企業との連携を密にして、適用できる企業には早期に展開して欲しい。 廃炉作業で多量に設置される汚染水用のタンク・廃炉作業で用いる各種のステンレス製品等、本技術(およびその基礎となる保有技術)を必要とし、かつアピール性が高い適用先は数多くあると思う。ニーズの開拓・本技術の発展先の開拓も、併せて取り組んで欲しい。(佐藤)
3	ブランド力の向上と販路開拓	基盤技術開発支援事業	県産味噌の品質向上に向けた最適な原料及び微生物の解明	県産味噌について、より高品質な製造方法を確立し、全国味噌鑑評会での上位入賞を目指す。それにより、県産味噌の知名度アップにつなげるとともに、県産食品の風評払拭の一助とする。	県産味噌の高品質化に向け、より最適な原料及び微生物等について検証し、全国味噌鑑評会にて上位入賞が可能な味噌製造方法を確立する。	H30	H32	A	味噌鑑評会にて上位入賞という成果目標は分かりやすくブランド力向上が期待される。ただしそのための品質定義・データ指標の分析など技術的なステップは整理する必要あり。	発酵食品製造が盛んな福島での高品質の味噌製造に関する研究は意義深い。スーパーマーケットで市販されている味噌の多くは大手メーカーの信州みそ(米みそ)が中心で、品質的に大手メーカーの製品を凌駕できるものは、全国的にも望まれている。そこで、安全安心を訴求できる県内産大豆・米・乳酸菌・酵母を用いた「オール福島」で造られることは商品価値が高い。味噌の研究は、時間を要し、研究方法や分析手法など十分な計画が必要であることから、予備試験などの準備に着手してほしい。(金内)